

## 長洲町教育委員会 会議録

|         |                        |                                                 |                                  |
|---------|------------------------|-------------------------------------------------|----------------------------------|
| 会議録     | 令和２年度 第４回 臨時長洲町教育委員会会議 |                                                 |                                  |
| 招集年月日   | 令和２年５月１２日（火）午後２時００分 招集 |                                                 |                                  |
| 招集場所    | 長洲町役場 ３階 議会第１委員会室      |                                                 |                                  |
| 出席者     | 委員会                    | 教育長 戸越政幸、坂本裕文教育長職務代理者、<br>上野美登委員、隈部壽明委員、徳田美津子委員 |                                  |
|         | 事務局                    | 学校教育課                                           | 課長 松林智之<br>指導主事 松井 明             |
|         |                        | 生涯学習課                                           | 課長 漁長洋志<br>社会教育文化係長 中山太喜         |
|         | その他                    | ながす未来館<br>指定管理者                                 | ながす未来館長 濱田 雅彦<br>舞台風 代表取締役 西田 和政 |
| 欠席者     | なし                     |                                                 |                                  |
| 職務説明責任者 | 松林学校教育課長               |                                                 |                                  |
| 会議録作成者  | 金森学校教育課長補佐を指名          |                                                 |                                  |

| 日程番号 | 事件番号   | 事 件 内 容                         |
|------|--------|---------------------------------|
| 第 １  |        | 議事日程について                        |
| 第 ２  |        | 会議録署名委員の指名について                  |
| 第 ３  | 協議第 ３号 | 令和元年度 長洲町図書館利用実績について<br>(生涯学習課) |

開会（午後２時００分）

○学校教育課長（松林智之）

ただ今から令和２年度第４回臨時教育委員会会議を開催いたします。

地方教育行政法第１３条第１項の規定に基づき、教育長に会議の議事進行をお願いいたします。

○教育長（戸越政幸）

それでは、本日は、出席委員が定数に達しておりますので、この会議が成立することを報告します。 それでは、令和２年度第４回臨時教育委員会会議を開会します。

お諮りします。会議の議題は本日配布しておりますとおりでよろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

それでは、日程番号第１、議事日程について、本日１日間とします。よろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

日程番号第２、会議録署名委員の指名について、坂本教育長職務代理者を指名します。

（異議なしの声あり）

議題に入る前に、課長…。

○生涯学習課長（漁長洋志）

今回、お忙しいなか貴重なお時間をいただきまして、教育委員会を開いていただき誠にありがとうございます。今回提出させていただいております、長洲町図書館の利用実績についてというところで議題を出させていただいております。つきましては、指定管理者の方に昨年度から委託しておりまして、今回、関係案件が指定管理者の方も関係者となりますので、今回この席に同席の許可をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

（異議なしの声あり）

○教育長（戸越政幸）

それでは、入室を許可します。

（ながす未来館指定管理者 入室）

日程番号第３、協議第３号について、事務局から説明をお願いします。

（協議第３号 生涯学習課長 説明）

○教育委員（隈部壽明）

図書館の利用数が減ったということは数でよくわかるんですけども、特に６歳未満と１８から２９と書いてあるんですけど、じゃあそこに対してどういう手立てをとると利用者が増えるのかということとはほぼわからないんですね。これを見る限り。で、解決策として電子図書館ていきなり出てるんですけども、電子図書館を入れることによってこの６歳未満及び１８歳から２９歳がこの電子図書館の品揃えの中でカバーしてるのか、してないのかさっぱりわかりません。ちょっとやっぱり分析を…。この６歳未満の子ども達は何を欲しているのかということ、若年層がどういう需要があるのかということそれを定常的じゃなくて、点数的

にきちっと把握して、そこに対してどういう手を打つか。本当に電子図書館が意味があるものかというのはもう一度考え直さないと駄目じゃないかなというのが一つ目。もう一つは、子ども達の利用が減っているというのはあるんですけども、これは例えば六栄小学校の読書日本一という取組をしましたけども、それと町全体としての読書率の向上という意味では小学校の図書館とか学校の図書館、ひっくるめて分析して、「学校増えてるじゃん、じゃあ未来館使わなくてもいいじゃん。」というふうになっても私はいいと思うんで、町トータルでちゃんと伸びてるねというところを把握しとかなないと、未来館、町の図書館が減った、悪いということには即、繋がらないと思います。6歳未満の子ども達に電子化したってあんまり意味がないと私は思うんです。で、大事なのは大人たちが読み聞かせを一生懸命やっているようなものをちゃんと子ども達を前にして、みんなが、町中の人を読み聞かせをやるようなレベルになって、読み聞かせてくれる。そしたら、次、こういうの読みたいと思ったならそっちに行く。やっぱり本を見ないと、6歳未満の人が電子化してタブレットで見ろというのは、私としては止めてほしいなと思いますけどね。ちょっと何か課題認識もはっきりしてないし、取組もはっきりしてないし、電子化することにどれだけ意味があるのか極めて疑問だなというふうに思います。品揃え見ても、文学を3000増やしたところではほぼ意味がない。あることに意味はあるけども、今の問題が解決するというアプローチとしては意味がない。文学を読みたい人なんてそんなにいない。ましては、5・6歳未満の人が文学を見ないということで、絵本100冊増やしたところでどういう意味があるかということ、意味はないな。そういうのが私の率直な感想です。もう1回考え直さないと駄目じゃないですか。

○教育委員（徳田美津子）

今、隈部さんがおっしゃったことも、もちろんとても響きましたけど、ご説明の中でね、2ページの下の方のことで飛ばされたので、何かピンと来なかったのかなと思いますけど、各種要因ということですよ。

（はい、そうです。）

まず、最初の1点目が図書館自体の利用が停滞していると少しここに書いてありますけども、その次のところに、今度、図書館じゃなくて子どもたち自身がインターネットとかあいう電子機器の方に親しみを持ってきているのでとありますよね、確かにこれ本当に今そういう時代なんじゃないかなと思うんですよ。読まなくて、動画で全部、動画を赤ちゃんでも楽しむんですよ。本当に上手にこう使える、簡単に使えるからね。で、6歳未満でも十分にYouTube大好きですよ。こういう時代も少し考えていただいて、タイトル・内容も少し考えていただけたらと思いますね。もう1個、図書館の中のデザインというか、長く居られるような、くつろげるような空間になるといいかなと思います。年齢層を見てもね、結構ご年配の60歳以上という方が一番多いじゃないですか。私の知っている方々もよく図書館に行って、全部時間をそこで費やしてきてみたいですけど、楽しみにして行ってらっしゃる方が年配の方は多いですよ。年齢層によって、随分目的とか違うと思うので、そこを考えられてやると思います。

○教育委員（上野美登）

1 番の個人・団体というやつの団体はどんな方々のを入れてあるんですか。こっちは数字が増えてますよね。

○生涯学習課社会教育文化係長（中山太喜）

1 番の個人・団体の方ですけれども、団体は様々な団体さんがありますけど。例えば、スローステップさんであつたりも団体で登録させていただいておりますし、学校関係の配本関係もここに全て、団体の方に入ってます。学校は大体クラスごとにカードを作っていたしております、各クラスに上限 30 冊 1 か月までという形で貸出しできるように行います。団体の方は結果、だいたい同じ水準で増えてきているということがあります。学校関係の配本は、引き続き貸出しが結構あつてるのかなと思います。個人的な利用が減ってきているのが一つは原因ではないかなということでこの数値から見て取れるのかなと思います。

○教育委員（上野美登）

ありがとうございます。学校貸出しという部分は学校関係なんで 10 代の…。14 歳までのところですよ。

○生涯学習課社会教育文化係長（中山太喜）

団体貸出しが結局、表 2 のところは一番右側の団体のところに入るんですよ。

（表のですね。）

年齢別のところには入ってこない形になりますね。でも、数値が若干違いますね。

○学校教育課長（松林智之）

補足ですけども、先ほどの評価委員の資料を見ていただければ、平成 30 年度の 34 ページ、35 ページに図書館の推進についての実績があります。この中で、町の図書館もそうですけど、学校の先ほどありました配本事業、30 年度は 1 万 47 冊、これが学校の 6 校の配本の数。その他団体を含めると、30 年度は 1 万 2401 冊と。35 ページの一番括弧書きの下ですね。学校配本事業。

○教育委員（上野美登）

申し上げたいのは、要は若い 11 歳までのお子さん達ていうのは、単独で図書館に行けない年代ですよ。学校の決まりでは、10 歳までは…。長洲校区は行けるんですか。

（4 年生以上。）

ですよ。なので、単独で行けない子どもさん達の人数を割り当てているということは、ここには必ず保護者の送迎等があるわけで、その送迎しないといけないという現状と思うんですよ。もちろん 6 歳の子は行けないわけで。自分たちで行ける方々の年代と若年層を取り入れたいということなので、私たちは行っても子どもが読むのを選ばせるだけというふうになっているんじゃないかな。

○生涯学習課社会教育文化係長（中山太喜）

今、上野委員からご意見いただきましたけど、実際、年齢別の貸出冊数、例えば 30 から 39 歳まで約 3000 冊、29 年度から令和元年度まで減っています。40 から 49 歳のと

ころも約3000冊、29年度から減っています。この数値を見ると、やはり11歳以下の子ども達プラスそれに一緒にくる親御さんの年齢層が30から40代なのかなということが見て取れますので、そういう親子連れの貸出冊数自体も減ってきているのかなということで評価を分析できるのかなと思っています。

○教育委員（隈部壽明）

じゃあ、その辺の解決策・取組み、それに対してどうするかというのをまず考えないと。親の問題だとしたら、親が来れるようにする環境をつくりましょうとか。もう一度視点を變えてどうしたらいいのかっていうのは非常にこういうふうにしかならないので、これじゃあ。どうですか。やっている人たちの気持ちを聞きたいなと思って。

○ながす未来館指定管理者（舞台風 西田和政）

指定管理者の西田でございます。今日はわざわざありがとうございます。その辺のことはTRCさんと全国的にどうですかという研修を昨年度いたしまして、他所はどんなことをして増やしているんでしょうかということで、研修をしたんですけども、基本的には、特効薬はないと。で、やはりちょこちょこイベントをして、足を運んでもらうというようなことでもございました。それで、私たちの方は最初から子どもとお父さん、お母さん達を中心に何とか足を運んでもらえないかなと、去年の春先から思ってたして、今年の5月に、日本の初開催である2020国際子ども舞台芸術未来フェスティバルというのを誘致してきまして、それでちょっと海外のパフォーマーが色々やってくれたりするんですけども、それを誘致してきたので、それにお父さん、お母さんと子どもが一緒に来て、その中の少しでも図書館に流れていくっていう作戦をとるつもりでもございました。これもコロナで駄目になったんですけども、その前に3月には子ども店長というのを考えまして、自分が使った絵本とかおもちゃを子どもが店長になって、フリーマーケットの子ども版といいますか、そういうのを企画していたんですけども、これもコロナで駄目になってしまった。それと8月にNHKのおかあさんといっしょのオフロスキーという番組があっているんですが、その人の読み聞かせがあるんですけども、それも誘致が決まっていたんですが、今、これを何とか他のところにはできないかと、延び延びで交渉をしているところです。で、それと一緒に図書館祭りを開催して、とにかくいっぱい来てもらおうというような手立てを考えておりました。後、この電子図書館なんですけども、動く絵本とかもありますので、来れなかったときとか、昨年みたいに台風が何度も来て閉館になったり、雨が多かったりすると、客足がガタッと落ちるわけなんですけども、そういうときはお家でそういう読み聞かせができるというようなことにも利用できますし、また文字だけとか映像だけとかにもなりますので障がいを持っている方にも利用できるということで、ぜひこれを導入したいなということでお話をしたところでございます。以上、取組みでございます。

○教育長（戸越政幸）

はい、ありがとうございます。他、ございませんでしょうか。

○教育委員（上野美登）

これ、提案もいいですか。足を運ぶ。来てもらうというのもすごく大事だと思うんですけど、長洲町全部が図書館というやっぱりイメージで動いていったほうが、小学校も中学校もありますし、図書館づくりが凄い魅力的であれば、自然とああいう本ないかなて子ども達が探すようになると思うんですよ。これ、ちょうど前回の教育勉強会の時に図書館の話がたまにまた出て、魅力ある図書館づくりということになったので、未来館の図書館もそれ中心に動いてもらわないといけないんですけども、長洲町全部が図書館。移動図書館とか色々ございますよね。紙芝居で廻るとか。そういった外に出る動きというのは取っていかれた方がより間口が広がるかなと。ここに、長洲の中心部に来てもらうということだけではなく、外に出ていくというのを取り入れられた方が間口は広がると思います。

○教育長（戸越政幸）

他にございませんでしょうか。司会をしながらいいですか。長洲町の人口が1万6千ありますよね。で、そういう人口の中で果たしてその1年間の合計貸出し冊数がどれくらいが本当は妥当なのか。どんどんこれがうなぎ登りにこれが12万冊、15万冊伸びていくことがあれなんでしょうけど。果たして合格ラインとするような冊数は一体どこにあるのだろう。ここでいうならば、29年との冊数からすると、ガクンと令和元年度のやつは落ちていきますよね。

それと係長。

（はい。）

この10万冊のときは熊本地震後のあれだろ。

（そうです。）

図書館利用が地震後ワッと増えたっていうような時期だったよね。

（そうです。）

とそういうのを聞いていたんですけども。

○生涯学習課社会教育文化係長（中山太喜）

表1の個人の方を見ていただくと一番わかりやすいかと思います。平成27年度が個人が8万5千、28年度が9万、29年度が8万8千、30年度が7万8千ということで、だいたい8万から9万前後で移行しているところがあるわけです。特に28年度は熊本地震がありました関係で特に隣の荒尾市さんの図書館が3か月間使えなかったということで、荒尾市の図書館を利用されていた方が、定住自立圏の関係で長洲町も使えますので、長洲町に流れてきた。29年度は、そのまいうちの図書館の方が居やすいということでそのまま利用されていた。29年度は荒尾市さんの方が再開して、貸出しを始めたけどなかなか利用者数が伸びてないという現状があったそうです。30年度になると、だんだんやっぱり長洲に来るよりも、地元についていうのがあって減っていったのかなということが一つ、色々お話を聞くとあるのかなと思っております。先ほど、教育長が言われた貸出しの人口当たりの貸出冊数ですけども、令和元年度で長洲町が1人あたり4.6冊くらいになるんじゃないかなと思います。すみません、資料を持ってきていないので。実際、令和元年度の数値を各管

内聞いていますけど、南関町さんが令和元年度で4冊です。ということで聞いております。荒尾市さんだと2.何冊、玉東、和水町1.何冊、玉名市さんはまだ統計が取れていないということなんですけど、玉名市さんは例年だと大体5冊とかいわれているのかなと思います。実際うちが10万冊、29年度あった時は、6.何冊ということで、県内で2番目か3番目に多い貸出冊数でした。大体、県の平均としては、3.何冊とか2.何冊とかが県の全体の平均であるのかなというところで数値を把握しております。

○教育長（戸越政幸）

ありがとうございました。だったらですよ、そういうのを実態として出すべき。で、そのデータに甘んじるじゃないですよ。だったら、長洲町はもっと魅力ある図書館づくりをして人口一人あたり6冊を一つの目標にして、そのためにどんな取り組みができるか。どんな連携をしたらできるか。そういうところにエネルギーと使っていくと。僕も満足していません、まだ。もっと図書館賑やかでいいんじゃないかなと思うんですよね。それと併せて、28、29年度あたりの増をね、増あたりはたぶん先ほど説明があったようなことで冊数が増えている。で、落ち着いたところで、今の人口に応じた読書は展開されてますよというデータを見てもらう。その上に立ってさらに魅力ある読書活動にする図書館づくりをしていくためにはどうあるべきかというのを知恵を出すというのが必要かなというようなことを今思ったんですけど。

○教育委員（隈部壽明）

あの、数を議論するのは、それはそれとして重要なことかもしれませんが、それぞれの図書館を活用することによって何が良くなったか。定性的なものをきちっと据えとかないと。本を読むことは楽しくなりましたという意見がこれだけあるんですよと、いいじゃないですかと、数は減っているけども。そういうことをちゃんと言ってあげないと。何か数の論理で減っているから増やせばいいなんて非常に短絡的な発想ではよくないので、やっぱりみんなが本に親しんで、豊かな生活になりましたとか気持ちが豊かになりましたとかね、そういうふうなものが向上してきましたと。計り方は難しいけども、そっちをきちっとここに入れとかないと数合わせで終わりましたみたいな。電子図書にしたら数が増えました、急に。良かったですね、そんな話にはならないんでね。もう1回きちっとみていくと、いいと思います。

○教育長（戸越政幸）

もう一ついいですか。併せて、こういう状態なので3か月に一度くらいこういうようなね、チェックをしていく。進捗状況を確認していく。そして、その状況で色々と知恵を出して工夫していく。例えば、こういうことをやっていきましたよになった時に、その進捗状況を確認かめて、出来ているのはどういう取り組みをしたからこういうふうなデータが出たというふうにして、それが全く出来てなかったのは、大きな反省。だから、これからは教育委員会の責任で何かあっても何か月に一辺とか。軌道に乗っていったら上半期、下半期で企業はするでしょ。チェックを入れるでしょ。そういうものを批判するのではなくて、より良いものを

作っていくためには必要だと思う。だから、そういうのをお互いに情報交換してより良いものを作っていく。そういうものをこれから先は作っていかないかとたい。

○生涯学習課長（漁長洋志）

今、色々なご意見いただきましたけど、一番最後に限部委員から言われたことのように、冊数ありきではなくて、それをもって何を目的とするんだと。そこがやはりそちらの重要性ですね。本を読むということはどうなんだと。その部分を言われているように、本だけ読んで冊数だけでどうだというお話は、言われるとおり、私、反省する部分が、冊数だけでみるところでありました。そういうところを踏まえて、何らかの形の取り方をどうにかするか、アンケートを取って自由意見をいただくとか、小学生に対してどういう取組みを、本との付き合い方をどうふうにやっていくかというところで。今、言われますようにもうこのご時世でございます。IT が進んで、もう正直、先ほど徳田委員からも言われたように子どもでもタブレット、携帯を触る時代になってきて、なかなかこの活字離れが指摘されているのも正直な現状でございます。

教育委員さんの中にも定期的なご報告をしながら、協議しながら、こういったやり方を図書館は目指すかというところを今後、ご協議いただきながら進めていきたいと思います。

○教育長職務代行者（坂本裕文）

先ほど、イベントを努力しながら呼び込むという方法の努力をされている状況がありましたので、特に若い方はそういうイベントに喰いつく部分はありますよね。だから、そういう工夫のうえで、プラスアルファに電子図書とかの乗っかっていく部分があれば、その一つになっていくかなと思うですたいね。もう一つは、学校とどう結びつけるかは非常に重要だと思います。学校の図書と。学校図書はですね、教育の方でも学校図書館の環境整備をどうするかというのも一つの工夫してもらいたいというのが意見として出ていたんですよ。ですから、その核となるのはやっぱり未来館の図書館であってもらいたいという部分はあるんですよ。で、町全体の読書環境づくりに一役を担ってもらえればありがたいと思うんですよ。未来館の図書館が。そすと、学校との連携を上手くやれば町全体が本当に図書館になっていきますよ。本当に今、活字離れなので手に取る、どがんしたら手に取れるのか。特に6歳未満の子には絶対に手に取らせたいんですよ。絵本を見て、活字を見て、文字を見させたい。本当に6歳までの子どもたちの文字に対するそれが大きなこの後の成長に繋がっていくんですよ。だから、ここの6歳までが僕は特に重要だと思います。特に重要。6歳までにどがん出会わせるかというのは、図書に。そのためにぜひ未来館の図書館と学校と一緒にあってどがん読ませるかというのは、来させる、または出かける。未来館でして、来させる、出かける。それを工夫していただければいいかなと思います。

○教育委員（限部壽明）

あの色んなところに言っててなかなか実現していないんだけど、図書館事業の一環として、童話発表会をやりますか。童話発表会は図書を読ませるというみんなが図書に親しんでもらおうという事業から極めてかけ離れてしまって、何か発表する技術を競おうみたいな

ふうになっているんですね。そういうことではなくて、やっぱり今後、本を読みたいのとみんなが思う。子どもも高齢者が読んだ本をぜひ子どもに読んでもらいたいと思うことを言ってもらって。「そうか、あのばあちゃんが言うから読みたい。」と。そんな環境をつくってあげないと童話発表会はやるなとは言わないけど、せっかくそういう場なら違うことをやって本を読みたいと思う雰囲気を作り出して、童話発表会じゃないでしょうと。ちょっと考え直してほしいなと思います。

○教育長（戸越政幸）

全く同じだけど、私のおすすめ本とってから、自分が読んだ、これはこういう部分が面白かったよというようなものを何かイベント形式で、10人ばかり集まって、聞きたいところに行って聞いてというような感じのやつを、取組みをやっているところありますよね。

（ビブリオバトル）

なんですかね。ああいうやっぱりいいですよ。童話発表よりもよっぽどよかと思う。

○生涯学習課長（漁長洋志）

県事業でどうしても下りてくるやつなんでですね。

○教育委員（隈部壽明）

それはもうそこはちょっと置いといて。

○教育長（戸越政幸）

そういう新しいですね、取組みをですね。

○生涯学習課社会教育文化係長（中山太喜）

例えば、今、隈部委員や教育長がおっしゃられたそういうビブリオバトルみたいなものを童話発表大会の時のアトラクションという形で一緒に開催して、結局、童話発表会だけで、発表することで終わってしまうてこともあるけども、それに伴って本と触れ合うとか。例えば、発表された本を図書館の入口に並べておいて、今日、発表された本はこれだよとかいうのを紹介してもらおうとか、そういう童話発表会自体のあり方もちょっと考えた方がいいのかなと、いうところもあると思います。ありがとうございます。

○教育委員（徳田美津子）

3ページにね、各種の取組みってあって、下の方から3番目のポツのところで、図書館SNSサイトの立ち上げてありますよね。これを早くやっていただきたいんですね。この中で、今、おっしゃったみたいな、紹介とか新刊が入ったとか、おすすめの本とか各年齢別にね、これがポンと入ると若い年齢のお母さん達も絶対SNS見るので、ピッて入ってくると見ますよね。それで随分違うと思うんですよ。子どもに言えるし。本当なんかどんどんやっていただきたいなと思います。そうするとスピードが早くなる。

○教育長（戸越政幸）

他に意見ございませんか。

○教育委員（上野美登）

この電子図書館の案の整備スケジュールのですね、システム開始みたいなのが5月上旬

から書いてあるんですけど、こういうのを始める時ってやっぱりモニターというかですね、若干名、100名とか登録して実際稼働させたりする計画ってのはあるんですか。もう7月1日にオープンしたら一気にスタート…。絶対あった方がいいと思うんですよね。不具合等々あって、いざスタートしましたというよりも、5月初旬からモニターを募集したほうが町全体で取り組んでいるなっていう感じは、私はでると思ってて、もう今まで役場が準備してきたことを7月1日にバーンとしますっていうよりは、みなさんのおかげで7月からスタートしましたっていうほうが、関心度、徐々に持たせることってできると思うし、プレオープン的なことをやっぱりしてもらった方が、みなさんもお仕事するなかで、いきなり始まったことを始まってから解決するのではなくて、少人数の中で意見を言ってもらおうとかですね、そういった方を作ったほうがスムーズにいくと思うんです。すごいこの準備期間がある中で誰もこの外部からの意見等はないわけじゃないですか、報告はあるけど。

○生涯学習課長（漁長洋志）

こちらがですね、システムをもし導入すると最終的になった場合ですね、こちら確定してはおりません。今、こういった色んな意見をいただいて。もしやるのであれば、こちら正直言いますと、システム的には既製品でございます。八代市が持っているTRCというのは既製品として、ソフトとして持ってらっしゃるシステムを導入する形になりますので、後は、要は、そこにどれだけお金をかけて、どれだけの本を並べるかというところがもうそれぞれの図書館の差になってきます。限部委員からも先ほどありましたように100冊というところで、文学をというところでありますけど、こちらが青空文庫といいまして、きれっているあの分がまず基本的には格安で購入出来て並べれるというところで、後は絵本と児童図書、こちらにつきましては、もう購入の仕方が電子図書というのがですね、1冊幾らというよりは1アカウント幾らという買い方をします。例えば、とある絵本があって、じゃあこれに一边に何人まで見れるような買い方をするかと。例えば、3人までしか見れないような買い方だったら幾ら。10人まで一边に借りれるようにするんだったら幾らというような買い方になってくる方式なんです。

で、それがやはり結構な金額になってきます。で、今、うちが予算等を含めますとですね、なかなか一边に導入をドンと、もちろん最初に導入費用をかけて、図書の新冊をいっぱい並べれば見栄えのいい、みなさんが見てくれる雑誌も入ればということになるんですけども、なかなか費用対効果でございます。費用面で一边に導入できるのが。この3000というのはほとんど無料の部分を持ただ図書館の見栄えという形で並べるようなところでございます、正直なところですね。やはり、上の220冊程度が、今から司書が選んで新書という形で並べるぐらいのスタートになるのかなというイメージでございます。この後、新刊を買うためには購入しながら、実際の活字の本と併せて、併用して購入するというような。費用は、本を買うのと電子を買うので2倍、同じ本買うといっても、そういった費用のかかり方はしてきます。

○教育委員（上野美登）

1回目見て面白くなかったら、2回目見ないですよ。ここを、2回目、じゃあ次ってなるようにじゃないといけないので、冊数は3200冊以上じゃなくて、100でもみんなが見たいと思うのを1番目に並べないと2回目は来ないですよ。

○生涯学習課長（漁長洋志）

もちろん、新冊が、例えば今月の末みたいな、よくインターネットとかで、電子図書とかで、KOBLOとか楽天とか色んな、ああいう形でタイトルが見えて、自分たちが長洲町図書館として買った分の新冊がこれですよという形を見せながらの画面にはなっていきませんが、もちろん言われますとおり、これがお金がなくて変わらんなら3か月経っても、4か月経っても同じ本のままやっかとかですね、そういうのになればもちろん対策、新冊を導入しないとかなかなか継続的には続かないというのは、費用の話になってきます。

○教育委員（上野美登）

案なので、すごく魅力的なものを書いておかないとこの部分だけ抜粋してみたら訴えるにはどうかと。ちょっと魅力には欠けるかな。だからもうちょっとよろしい感じで書いた方がいい。案としてあげるならですね。

○教育委員（隈部壽明）

各学校の貸出しカウントを数が欲しいんならここに付け加えれば。

○生涯学習課長（漁長洋志）

配本の方が入ってるんですけどね。

○教育委員（隈部壽明）

配本は別にダーンとやって終わりじゃないですか。でも、貸し出してるのは、学校として色々貸し出しているものはいっぱいあるんで、そういうふうにカウントすれば。

○生涯学習課社会教育文化係長（中山太喜）

学校図書館の貸出し冊数を一緒にカウントする。

（そうそう。）

○教育委員（隈部壽明）

町全体とトータルが出るじゃないですか。

○教育委員（上野美登）

張り出してあるところありますよ、クラスに。

○教育委員（隈部壽明）

ここにプラスアルファで、参考かなんかで学校のやつを明記して、トータルを出してやって、増えてるじゃないですかと。

（予算は別々なんですよ。町図書館と学校と。）

電子化することはそれはいいことなんだよ。それはやってくださいと。でも、数として見せる時は、トータルで見せましょうと。

○生涯学習課社会教育文化係長（中山太喜）

補足ですけども、この電子図書館でもう1個、一つ魅力として、地元独自のアーカイヴ

とかができるというのがあります。例えば、町広報誌とかを PDF で取り込んでそれをこの図書館の中で無料で見せることも可能ということになっています。限部委員もいらっしやいますけど、文化財とかの PDF を抜かれてそれをこの図書館の中に載せて、それをアカウントなしで誰でも見れますよという形の対応をすることは可能ということで伺っております。で、よくやられているのが、何か、小学校とかの卒業アルバムとかを PDF で取り込んで、この電子図書館の中にずっと並べていらっしやるとかいう市町村もあるということでは聞いております。

○教育委員（上野美登）

それはやばいですね。一番、やっちゃいけないやつですね、それ。付け加えるのはいいんですね。その大元は T R C ですが、町独自のを…。

○生涯学習課長（漁長洋志）

著作権とかが存在しない分に関しては、こちらで色々…。

○教育長（戸越政幸）

他はございませんでしょうか。たくさんですね、貴重な意見が出ました。ありがとうございました。

それでは、これを持ちまして本日の全日程が終了しました。

第4回臨時教育委員会会議を終了いたします。

大変お疲れ様でした。

閉会（午後3時14分）